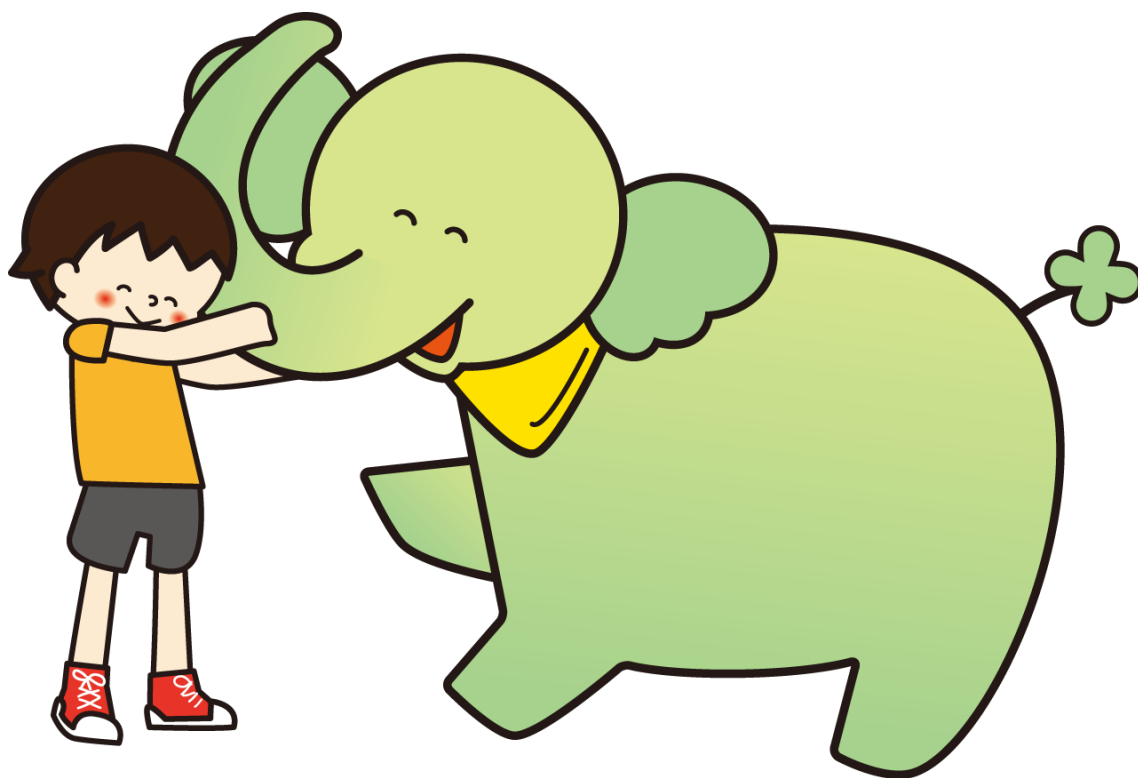


NPO 法人子どもの権利オンブズパーソンながさき

第1回 子どもアンケート

2020年12月23日



NPO 法人子どもの権利オンブズパーソンながさき

〒850-0057 長崎市大黒町 4-26-302

(NPO 法人長崎県子ども劇場連絡会内)



I 調査について

●実施主体

NPO 法人子どもの権利オンブズパーソンながさき

●実施日・場所

2020年12月13日(日) 13時~15時

浜の町アーケード ハマクロス前(マクドナルド前)

●対象

高校生以下(中学校卒業から18歳まで)の子ども

●実施方法

・街頭で対象に声をかけ、回答者を募る

・あらかじめ用意した質問と答えに対して、各年代ごと(高校生(中学校卒業から18歳まで)、中学生、小学生、小学生未満)に色分けされたシールを貼ってもらう

いま困っていることはありますか?			
がっこう 学校のこと	べんきょう 勉強のこと	いえ 家のこと	
ともだち 友達のこと	からだ 体・こころのこと	しょうらい 将来のこと	ない こた 答えた ない

そのことを話せる人はいますか?			
おや 親	ともだち 友達	せんせい 先生	
きょうだい	ネットの人	それ以外の人	いない こた 答えた くない

II 調査結果

●回答者人数及び学年

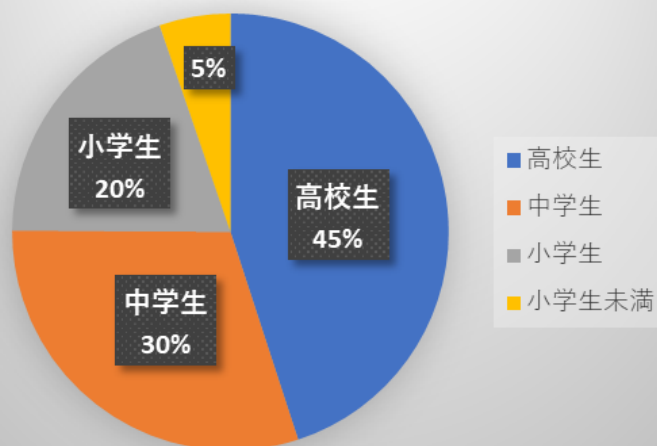
- ・総回答者数：209名
- ・高校生（中学校卒業から18歳まで）：94名
- ・中学生：63名
- ・小学生：41名
- ・小学生未満：11名

※これより以下のグラフには、小学生未満の回答は反映していません。小学生未満の回答は質問の理解が難しかったり、保護者の意見に左右される場面も見られたためです。

それでも回答欄を用意したのは、例えばきょうだいでアンケートに回答していただける場合、弟妹と一緒にシールを貼りたいと思った場合の受け皿が必要だと考えたからです。

これは小学生未満の回答を無意味だと捉えているわけではなく（母数が少ないということもあり）、比較や考察に当たって、今回は小学生未満の回答を除いて行うことが適当だと考えた結果です。どうぞご理解ください。

回答者合計（209名）

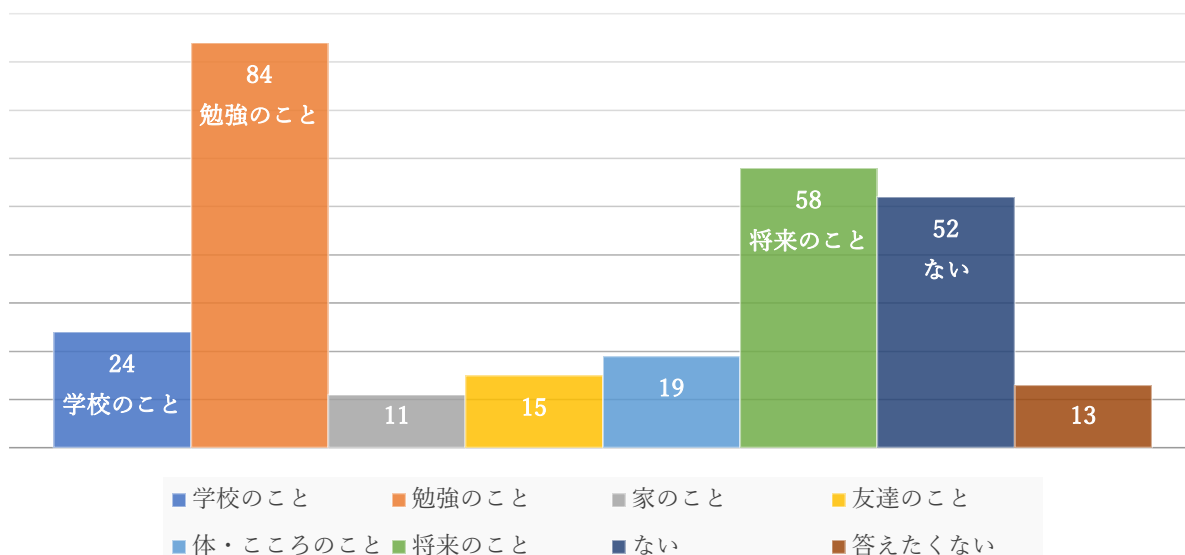


① 質問：「いま困っていることはありますか？（複数回答あり）」

回答項目：学校のこと、勉強のこと、家のこと、友達のこと、体・こころのこと、将来のこと、ない、答えたくない、以上8項目

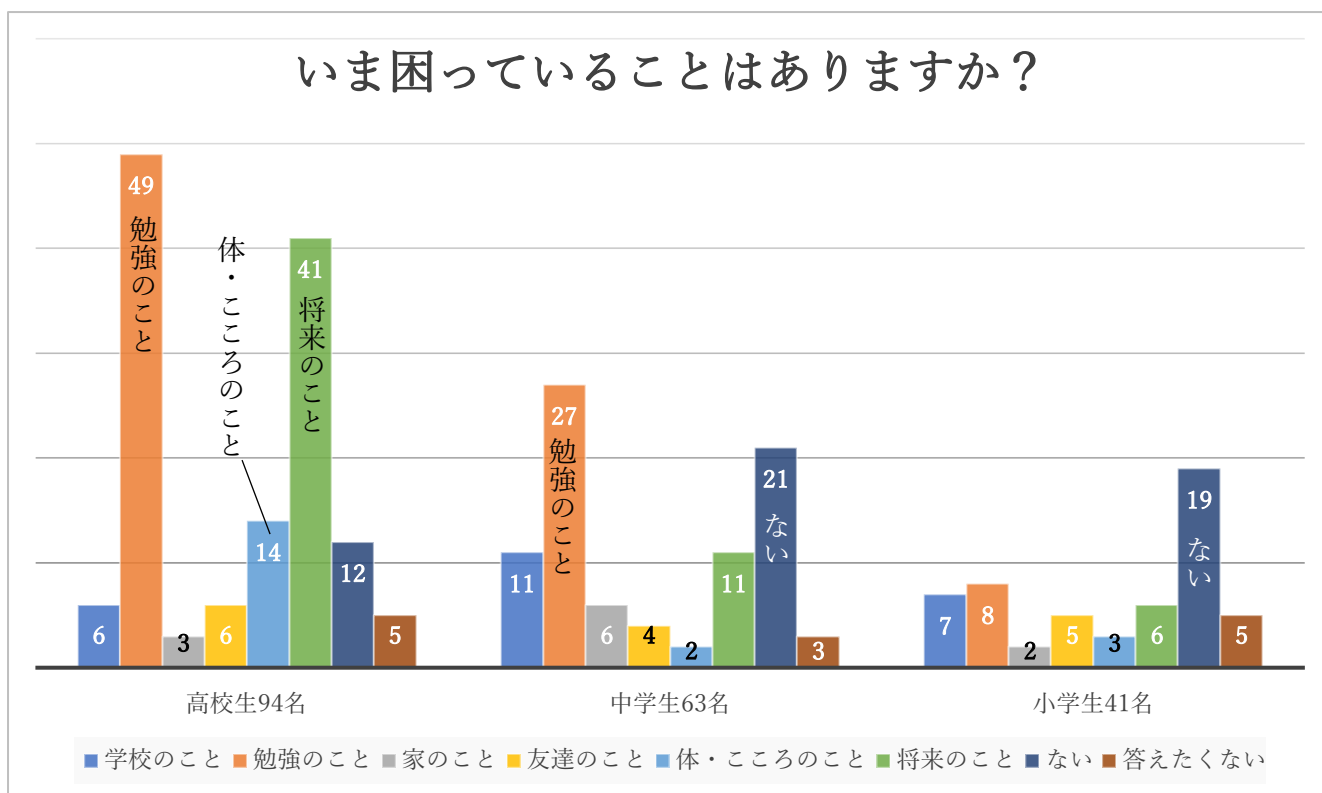
いま困っていることはありますか？

198名（総回答数276）



- ・一番多かったのが“勉強のこと”、次いで“将来のこと”“ない”“学校のこと”となった
- ・198名のうち84名（42%）が“勉強のこと”を選んだ
- ・198名のうち58名（29%）が“将来のこと”を選んだ

●小・中・高校ごとの比較

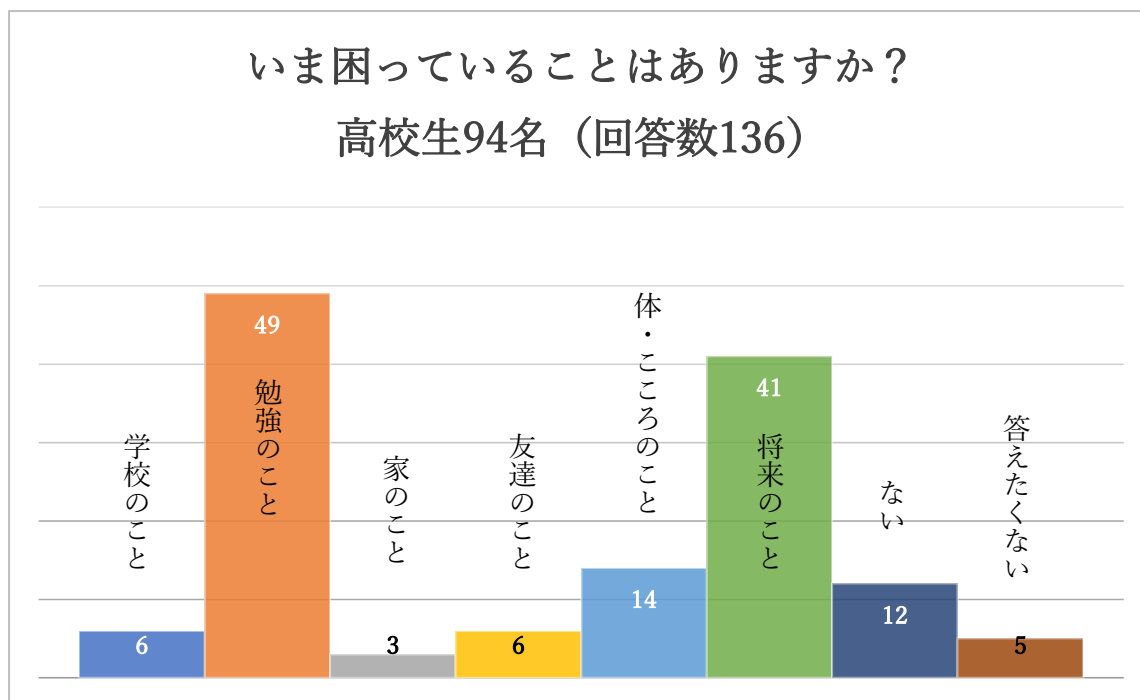


- ・高校生、中学生は“勉強のこと”が一番多かった
- ・小学生は“ない”が一番多く、次点が“学校のこと”だった
- ・中学生、小学生は“ない”を選んだ人が多かったのに対し、高校生は少なかった
- ・高校生は“体・こころのこと”を選んだ人が多かったのに対し、中学生、小学生は少なかった



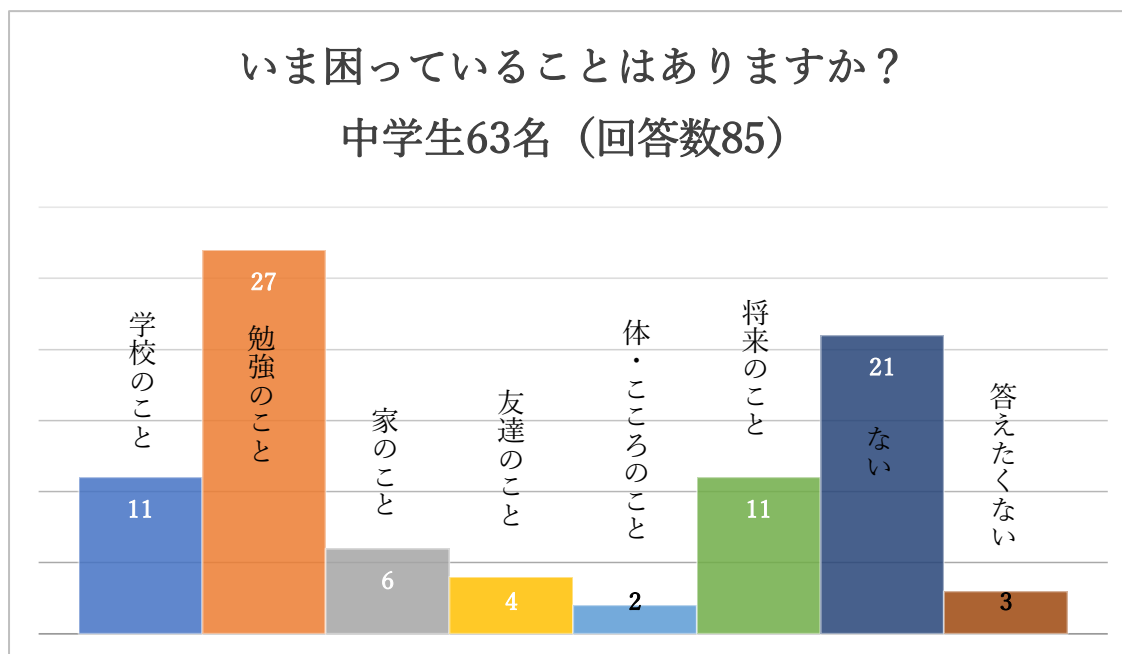
●小・中・高校別

高校生（94名・総回答数136）



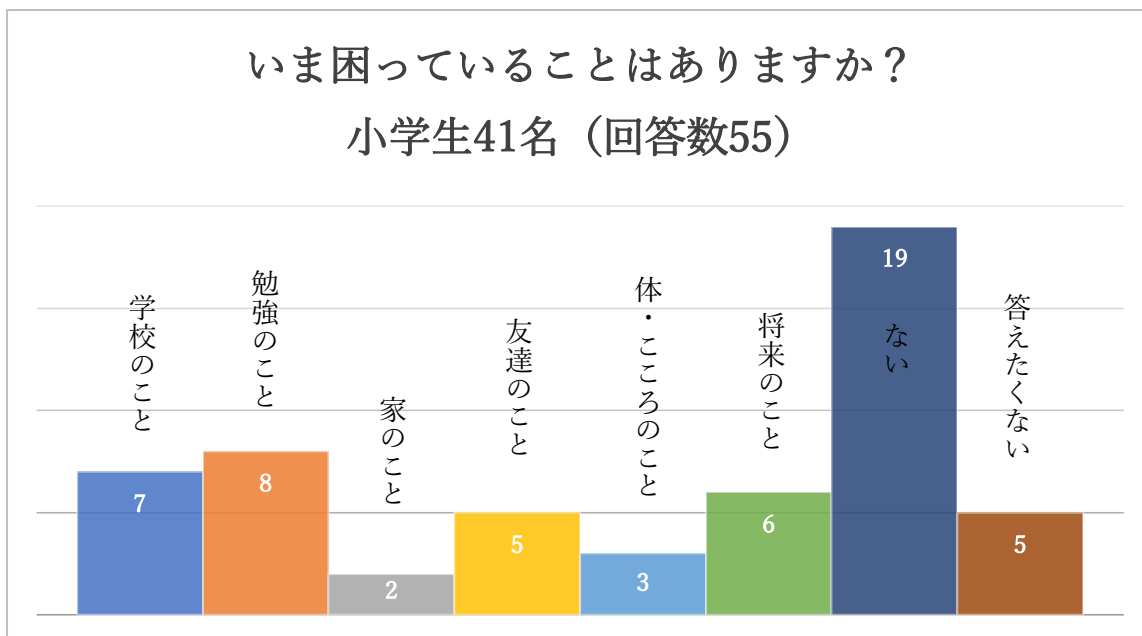
- ・“勉強のこと”が一番多く、次いで“将来のこと”“体・こころのこと”だった
- ・94名のうち49名（52%）が“勉強のこと”を選んだ
- ・94名のうち41名（44%）が“将来のこと”を選んだ
- ・“家のこと”を選んだのは3名で、もっとも少なかった

中学生（63名・総回答数85）



- ・“勉強のこと”が一番多く、次いで“ない”“学校のこと”“将来のこと”だった
- ・63名のうち27名（42%）が“勉強のこと”を選んだ
- ・63名のうち各11名（各17%）が“学校のこと”“将来のこと”を選んだ
- ・“体・こころのこと”を選んだのは2名で、もっとも少なかった

小学生（41名・総回答数55）

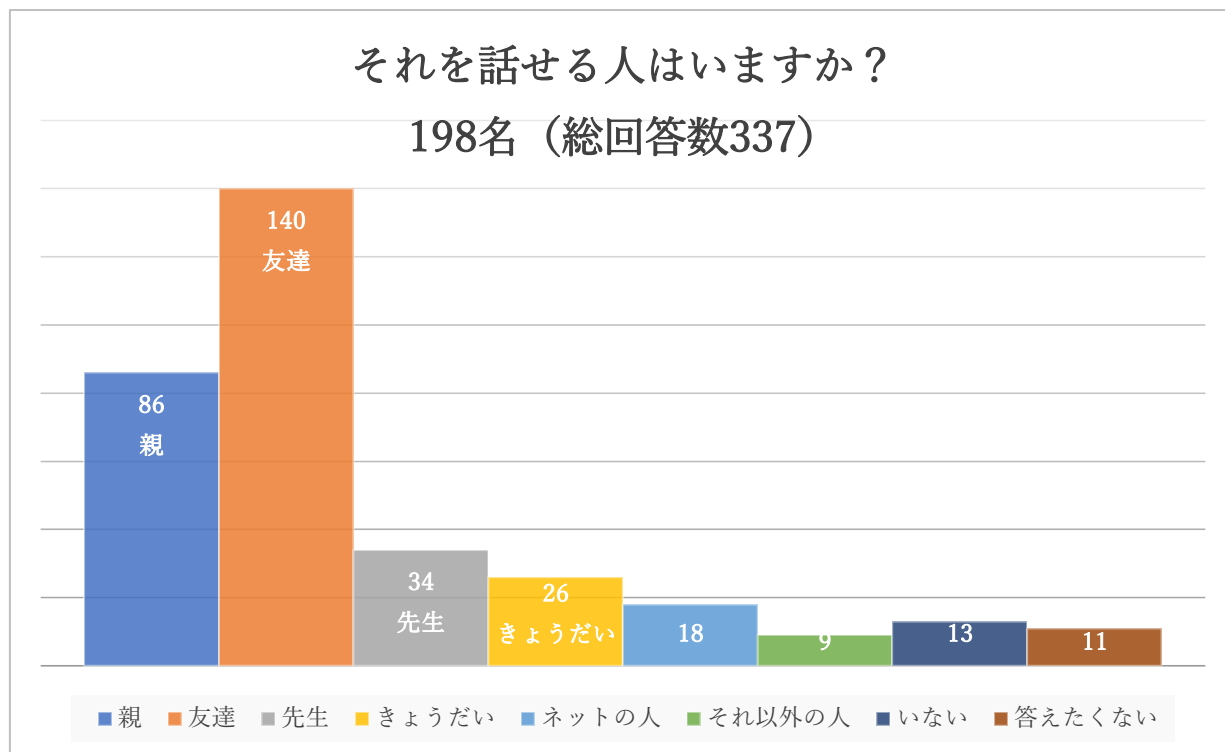


- ・“ない”が一番多く、次いで“勉強のこと”“学校のこと”だった
- ・41名のうち8名（19%）が“勉強のこと”を選んだ
- ・41名のうち7名（17%）が“学校のこと”を選んだ



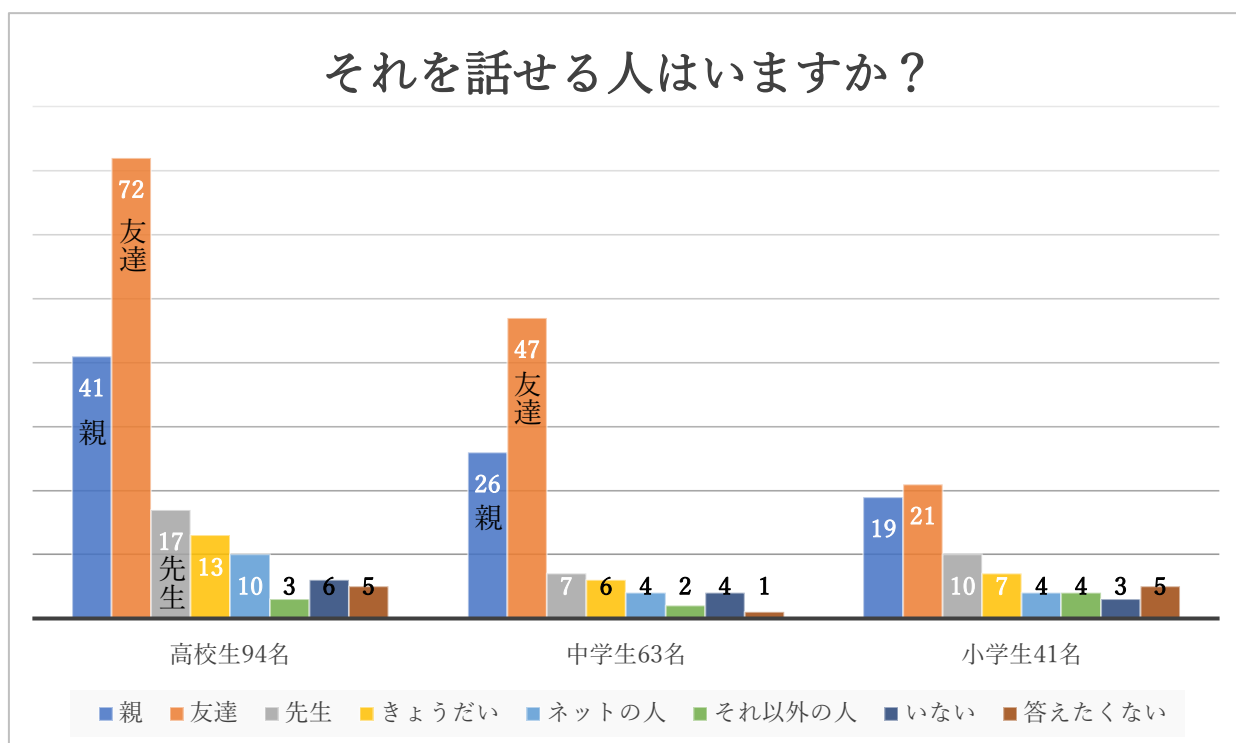
② 質問：「それを話せる人はいますか？（複数回答あり）」

項目：親、友達、先生、きょうだい、ネットの人、それ以外の人、いない、答えたくない、以上8項目



- ・一番多かったのが“友達”、次いで“親”“先生”“きょうだい”となった
- ・198名のうち140名（71%）が“友達”を選んだ
- ・198名のうち86名（43%）が“親”を選んだ

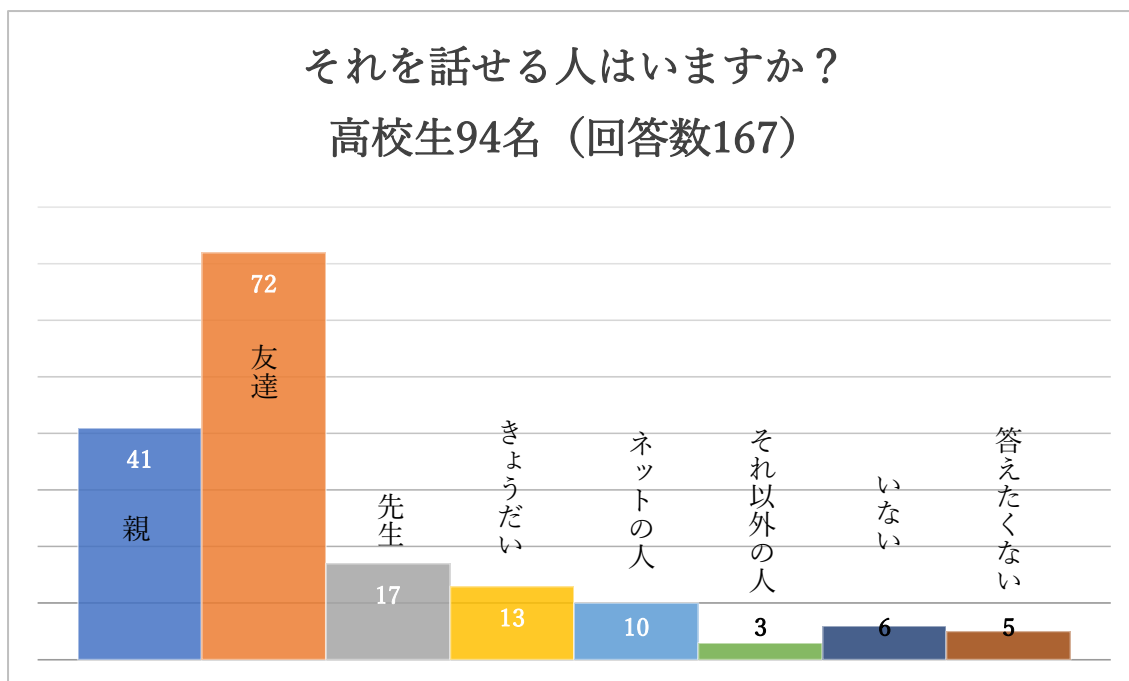
●小・中・高校ごとの比較



- ・全学年で“友達”が一番多く、次点の“親”“先生”“きょうだい”も共通だった
- ・全学年に一定数“ネットの人”を選んだ人がいた
- ・全学年に一定数“いない”を選んだ人がいた

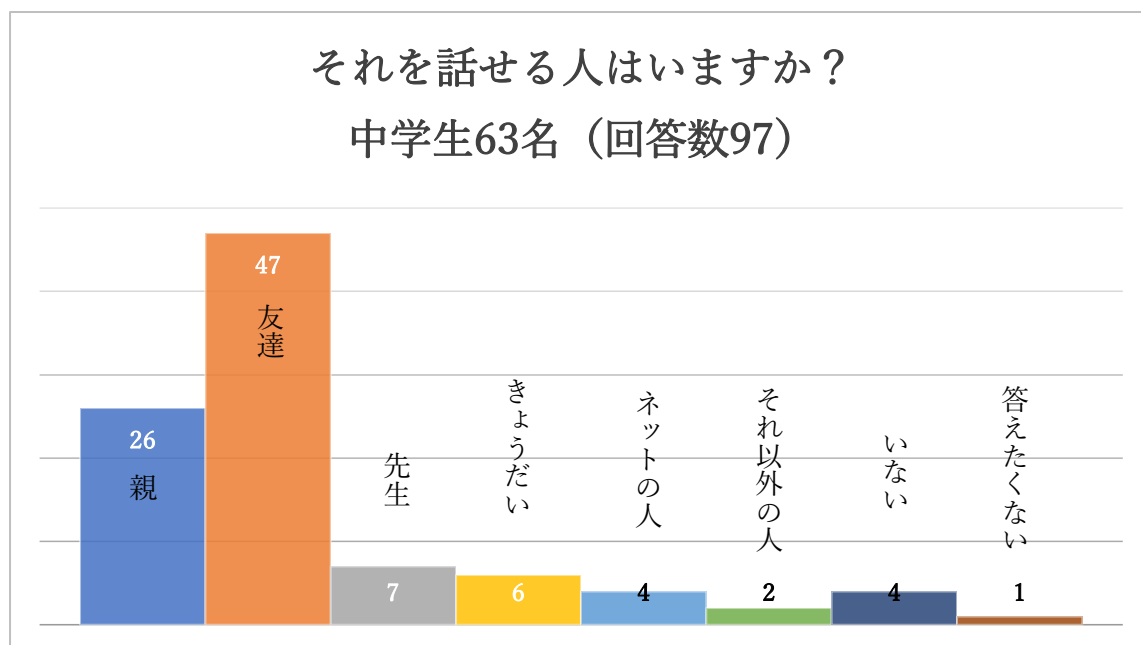
●小・中・高校別

高校生（94名・総回答数167）



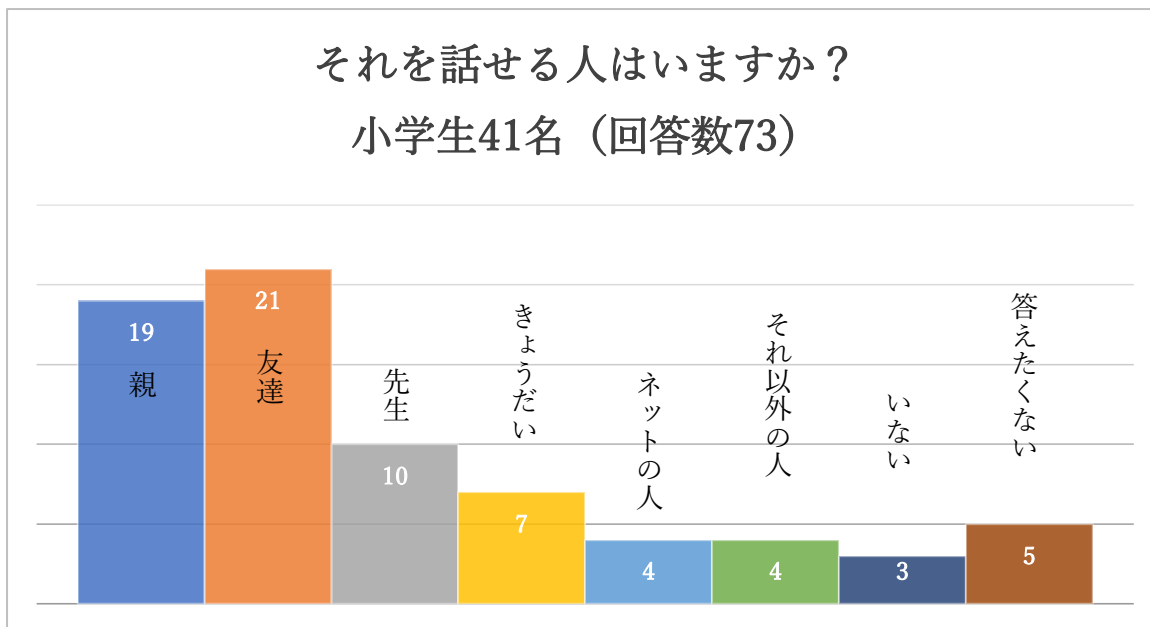
- ・“友達”が一番多く、次いで“親”“先生”だった
- ・94名のうち72名（77%）が“友達”を選んだ
- ・94名のうち41名（44%）が“親”を選んだ
- ・94名のうち10名（11%）が“ネットの人”を選んだ

中学生（63名・総回答数97）

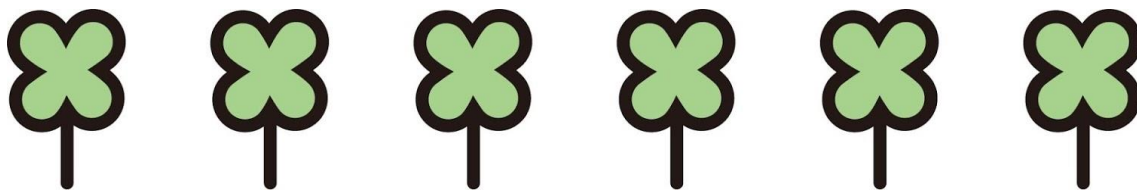


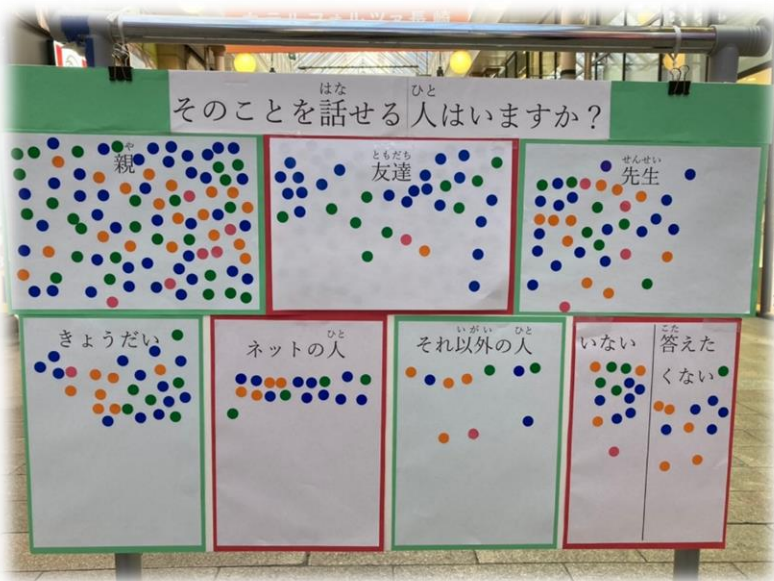
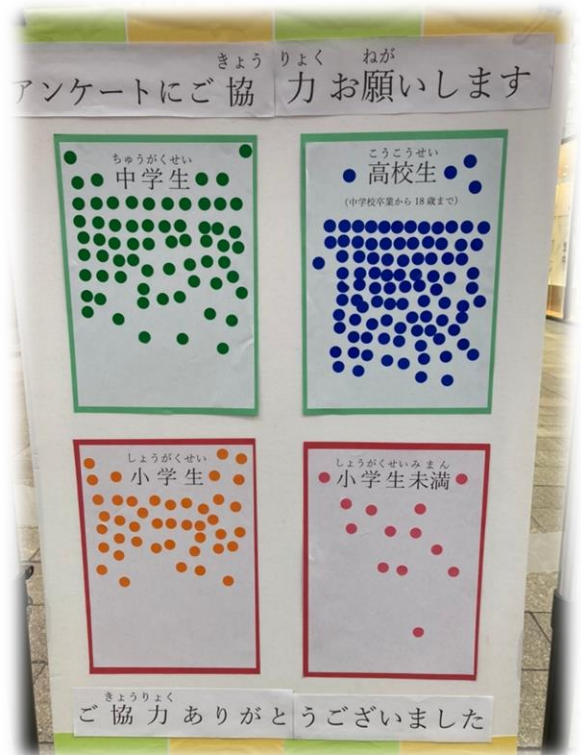
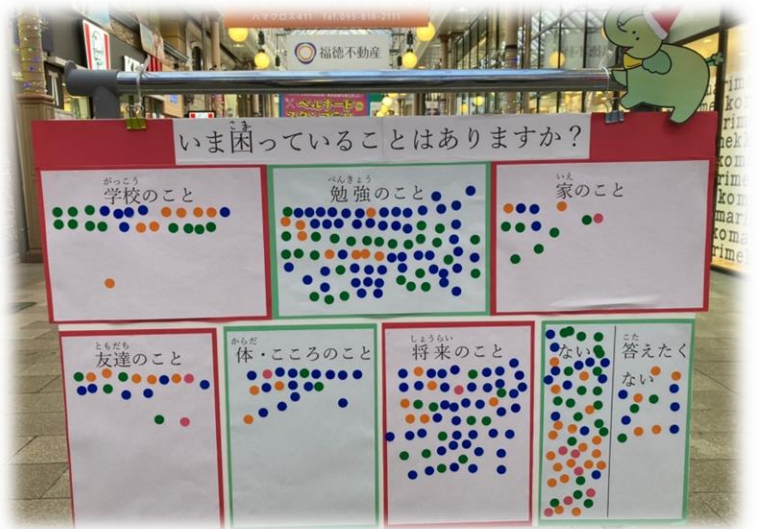
- ・“友達”が一番多く、次いで“親”“先生”だった
- ・63名のうち47名（75%）が“友達”を選んだ
- ・63名のうち26名（41%）が“親”を選んだ

小学生（41名・総回答数73）



- ・“友達”が一番多く、次いで“親”“先生”だった
- ・41名のうち21名（51%）が“友達”を選んだ
- ・41名のうち19名（46%）が“親”を選んだ
- ・41名のうち4名（10%）が“ネットの人”を選んだ





おわりに

今回初めて路上アンケートを行いました。新型コロナウイルス感染拡大の影響も心配でしたが、それ以上に“子どもたちの声を聞きたい”という思いがあり、できる限りの感染防止対策をして実施しました。相談につながるようにアンケート後にオンブズのカードを配りましたが、「見たことがある」と言ってくれる人もいて嬉しかったです。

約2時間のアンケートで209名の子どもたちが回答してくれました。この人数は事前の想定よりも多く、また、アンケートの願いを声かけすると、好意的に受けてくれる人がほとんどで、とても嬉しく思いました。

日頃相談を受ける中で、困りごとや悩みごとを「どうせ話してもわかってもらえない」と感じている子どもが多く、今回のふたつの質問になりました。コロナ関連を質問に盛り込む案も出ていましたが、コロナ禍であろうとそうでなかろうと、子どもたちがどういうことを困りごととして感じているのか、またその困りごとを誰に話しているのかをまず知ることが重要だと考え、今回はあえてコロナという文言を盛り込まずに行いました。

初めての調査ということもあり比較対象がないので深い考察にはならないものの、高校生の44%が“将来のこと”を困りごととして上げたのは、もしかすると新型コロナウイルスの影響があるのかもしれない。

話せる人の質問では全体（小学生未満除く）の71%が“友達”を選んだことから、友達関係が何らかで不調になってしまうと、こちらの想像以上に孤立を感じてしまう可能性が高いのではないかと捉えることができると思います。

同じく話せる人の質問に“ネットの人”という項目を入れましたが、高校生10名、中学生と小学生がそれぞれ4名その項目を選んでおり、オンラインゲームやSNS等を通じた関係（と予測される）が一定あることが伺えました。この点は単純に話せる人がいるというポジティブな面だけで捉えることはできないと考えています。

話せる人は“いない”という回答は高校生6名、中学生4名、小学生3名と多くはありませんでしたが、どの年代にもいることを考慮しなければなりません。

路上アンケートはその性質上簡単な質問内容で深く知る機会とはなりませんが、それでも街に出て実際に回答してもらおうという方法は悪いものではないというのが感想です。

今後も継続的に路上アンケートを実施し、子どもたちの声を聞かせてもらいながら、その声を反映させた活動、並びに地域づくりに取り組んでいきたいと考えています。

私たちのもとに届く声はあくまでも一部であり、その背景にはもっとたくさんの上げられない声があります。そこにどうアプローチしていくのか、私たちの目の前にある困りごとはわずかでも、そのわずかな声をきっかけにして同じような困りごと、悩みごとを抱える子どもたちが少しでも過ごしやすくなるように考えていきたいと思えます。

回答及び運営にご協力頂いた皆様、本当にありがとうございました。

NPO 法人子どもの権利オンブズパーソンながさき
代表理事 古豊 慶彦